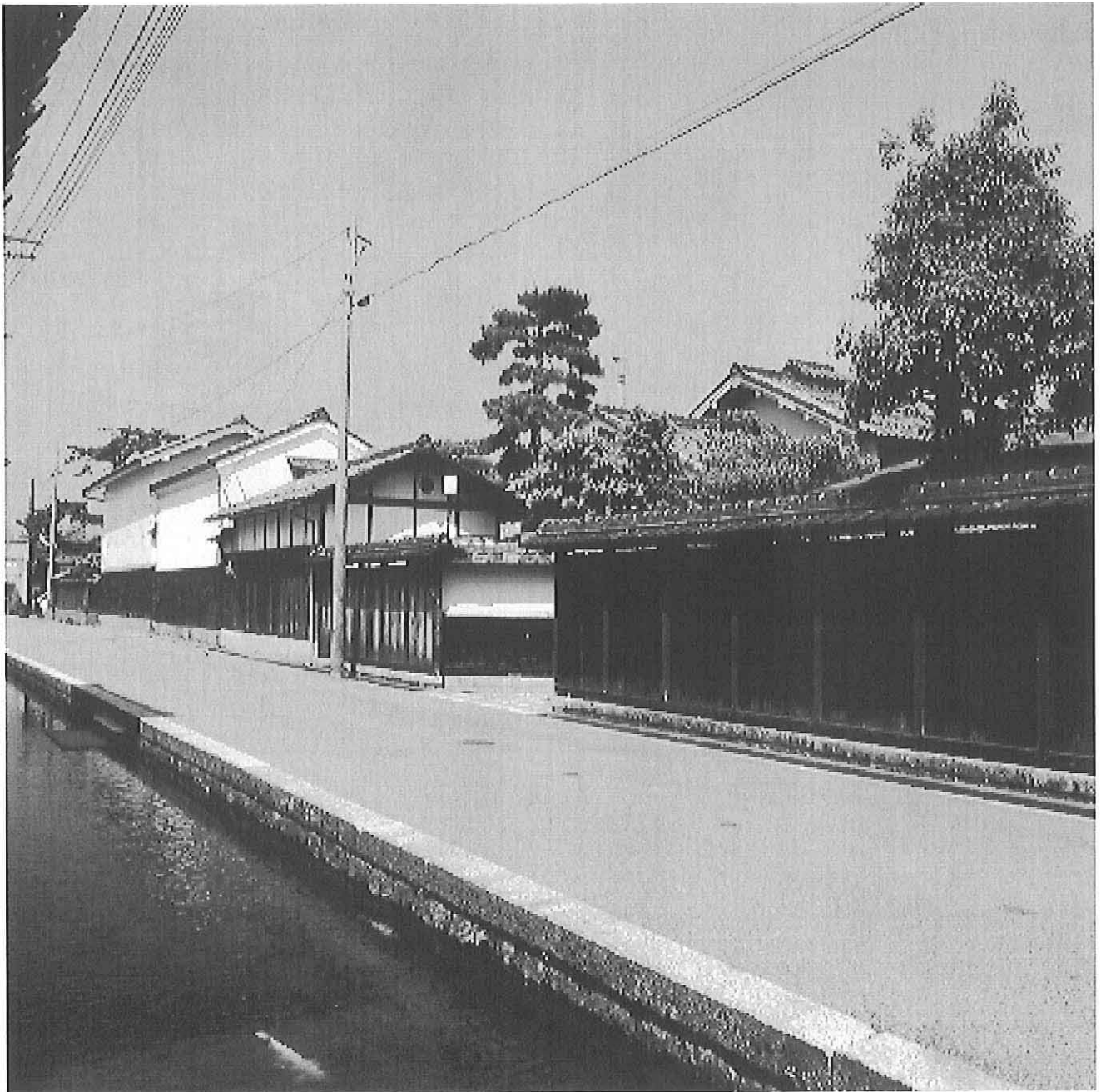


さんぽう
三方よし

第13号
1999/8

CONTENT

新シリーズ 現代に息づく近江商人魂	2~4	今年のスタンプラリーは豪華景品が勢揃い	
近江商人ふるさと探訪ウォーク開催	5	／金言名句®	7
近江商人と文化・芸術「バロン薩摩」	6	催し案内／てんびん棒	8



三方よし 「三方よし」は近江商人共通の経営理念。「売手よし 買い手よし、そして世間よし」の精神で地域社会に大きく貢献した。本紙は近江商人を代表する理念を主題としている。

重要伝統的建造物群保存地区に指定された五個荘商人発祥の五個荘町金堂地区

連載

現代に息づく近江商人魂

【その①】

「地域のため」を实践する現代の近江商人

アモール・トーワ社長 田中武夫氏

日本の商業の原点を作ったといわれる近江商人。その商売にかける理念は現代社会でも高く評価されるとともに、今に通じる商法であると再認識されています。近江商人の精神を受け継いで各地で事業を展開されている人々を紹介し、不滅の商売理念を再考してみることとします。

「商売は高い(飽きない)」「儲けると思うな。利は後からついて来る」という近江商人の商売の理念を深く刻み、徹底した地域住民主義の枠組みによって事業を展開するアモール・トーワ。その事業推進の根底には、近隣を大切にし、友と腕を組み、たとえ非力な同士でも協働すれば事をなし遂げられるという連帯の精神があった。衰退する商店街の活性化のために株式会社を設立し再び商店街の時代がやってくる信じ「まず地域の人、お客さんの喜ばれることが大切、利が先にきてはいけません。これは近江商人の教えです。」と言い切る田中武夫さんは、今に生きる近江商人である。

東和銀座商店街を引っ張る田中氏

JR常磐線亀有駅前には、イトーヨーカ堂をはじめ大型商業施設が林立し、北口・南口ともに賑わいをみせている。東和銀座商店街は、亀有駅から、駅前の商店街を通り十分程の距離、葛飾区に隣接した地域にある。かつては、白転車に乗ったまま

では通れないぐらいに、買い物の人々が行き交っていたといわれるが、今はひっそりと何軒かの商店はシャッターが降りたままであった。一九八一年には東京都の商店街活性化モデル事業の第一号になり、城北地域では有力な商店

たなか・たけお
一九三二年滋賀県に生まれ、五〇年八幡商業高校を卒業。繊維会社に就職後、五九年に独立しベビー洋品店を開業。現在四店舗を経営。東和銀座商店街振興組合・足立区商店振興組合連合会理事長。九〇年にアモール・トーワの設立と同時に社長に就任。



街であった面影は少ない。しかし、この商店街の活動が、地盤沈下の進む全国の商店街からの視察が絶えることがないという。その理由は、この商店街が会社を設立して多くの事業展開をしつつ、地域の人々に不自由をおかけしないという姿勢で行動していることにある。

まちづくり株式会社設立以来、社長を務める田中武夫さんがこれらの事業の牽引者。八幡商業高校を卒業後、上京して入

社した会社がまもなく倒産、その後独立してベビー用品の店から出発し、テナントなど四カ所の店舗を経営している。一方で商店街活動にも積極的に七八年には地元商店街の理事長に推挙され、東京都の商店街連合会の幹部や全国商店街振興組合理事などを歴任してきた。同時にその頃から、駅周辺の商業集積が進み、東和銀座商店街の衰退が始まっていた。かつて八十店あった店舗も次第に減少し、幾つ



JR常磐線亀有駅ガード下のショッピングセンターの「ふるさと館」地方の特産物やこだわりの食品が揃う。

かの振興策を打ち出したものの事態は厳しくなってきた。こうした状況から転換して、活路を

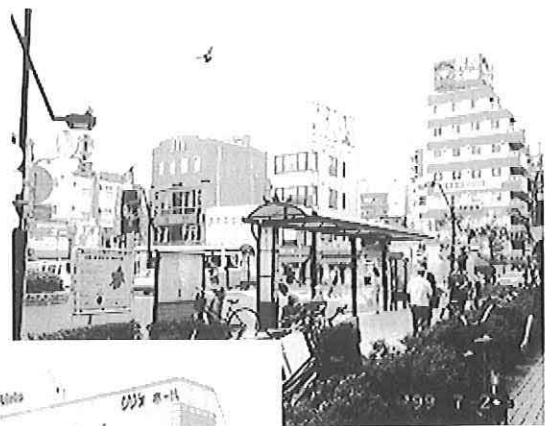
切り開いたのが、まちづくり会社の設立であった。

地域住民主義の会社設立

隣接する地域に東部地域病院における売店やレストランの経営者の募集が会社設立のきっかけとなった。商店街では、できっこないという反論もあったが「地域に役立つのが商店街」という田中さんの持論が、行政の担当者にも通じ、病院での売

店・レストランの経営の権利を獲得した。若手商店主の積極的な協力もあり、商店主ら四十一人の出資で株式会社「アモール・トローワ」が病院のオープン二カ月前の九〇年五月に設立。厳しい環境の中で会社を設立し、成功した弾みは大きかった。地域住民主義を唱える田中さんの事業展開は、続いて足立区が学校給食を民間委託する事業へも歩を進め、さらには一人暮らしの高齢者らへの昼食宅配サービスも赤字を覚悟で手掛けることとなった。多くのプロが赤字を懸念していた事業であったが「地域のため」を優先した田中さんの決意の表れである。「地域のため」という言葉を言う時、八商時代にたたき込まれた「客に尽くす」を第一義に考える商人道が根っこの部分にあるが、さらに自分が独立して今日までの人生に多くの人々の援助によって支えられてきた感謝の気持ち世の中に恩返しをしたいという意気込みでもある。

アモール・トローワは株式会社の形態をとってはいるが、稼ぐことを最終目標としていない。その意味ではNPO（非営利組織）である。地域住民のために役立つ仕組みを考えることが第一で、会社の地域活動全体で赤字にならないればよしという田中さんの考え方である。年商四億円のこの会社には百四十人の従業員が働いている。販売不振で閉店した魚屋を会社で再開し、その仕事はレコード店主が携わっている。また、閉店した商店主がふるさと館の主任とし



亀有駅北口の商業集積地

アモール・トローワの活動や経営理念はNPO

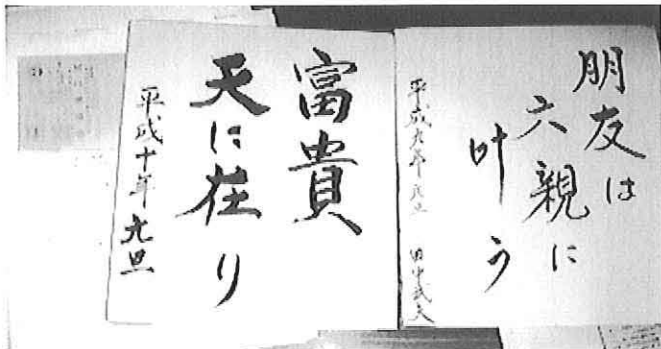
アモール・トローワは株式会社の形態をとってはいるが、稼ぐことを最終目標としていない。その意味ではNPO（非営利組織）である。地域住民のために役立つ仕組みを考えることが第一で、会社の地域活動全体で赤字にならないればよしという田中さんの考え方である。年商四億円のこの会社には百四十人の従業員が働いている。販売不振で閉店した魚屋を会社で再開し、その仕事はレコード店主が携わっている。また、閉店した商店主がふるさと館の主任とし

て働くなど、商店の人々の生活の安定をはかりつつ、地元雇用にも商店街が貢献していることを自負している。

駅前イトーヨーカ堂が出店してきた時、東和銀座商店街では出店に際して、何の異論も呈することがなかった。田中さんは「大型店は利益の追求が第一で、採算が合わなければ撤退します。地域の商店街はお客さんに支持されて初めて生きていけるのであり、採算だけで閉めることはできません。商店街と地域住民は運命共同体です。大と



アモール・トローワでは亀有駅南口に建つイトーヨーカ堂のビルメンテナンスの仕事を請け負っている。



田中武夫さんが毎年、心に刻む年頭所感の一部

「高齡化社会になればなるほど、地域の商店街の必要性は増え、その時、役に立つ商店街でなければ、生き残りは難しい。この商店街に生まれ育って良かったと思える商店街を目指したい。」と語る田中さんではあるが、現在の多くの商店主に対して「文句は言うがリスクは負わない。それでは商店街は活性化しない。さらに現在は易きに流れ、朝十時にシャッターを開け、夜七時にシャッターを下ろすような商売を続けていけば客が逃げるのは当然です。さらにダメだったら直ぐにあきらめてしまいい、どうしたら良いかを考えないでいる。商店主よしっかりせよ」と商店主たちへの要求は厳しい。田中さんは十五年以上、毎朝五時二十分に床を離れ、四百メートルある商店街の清掃を日課としている。以前は一時間かかったが、現在では同調する



地域商店街に必要なインストアペーカリー。職人の養成から始まった事業は赤字が続くが、地元住民の不便さを解消するためにと会社で経営している。

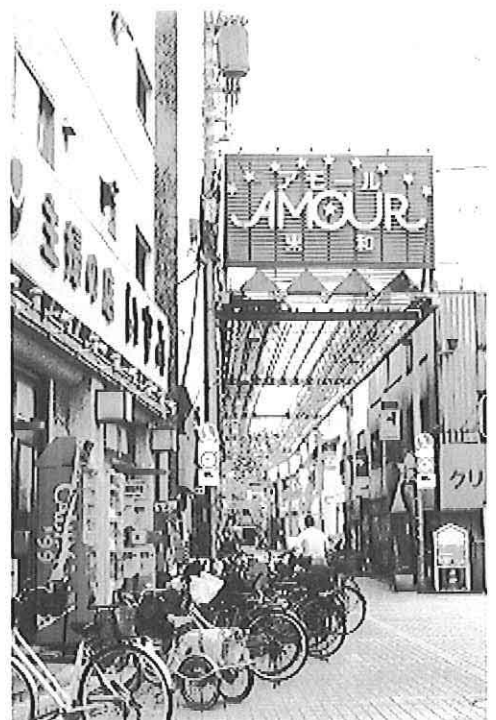
再び商店街の時代が来る

小の棲み分けこそが大切で地域の人々のために商店街が存在するのです」と言い切る。出店時の経緯からイトーヨーカ堂のビルメンテナンスの仕事がアモール・タワーに打診され、店主

の一人が研修に出掛け、すでに事業が始まっている。地域のたぬにお役に立てることをという信念から始まったアモール・タワーの事業は、次々と新しい展開が進められてきた。

人が現れ四十分で済むという。「善意はいつか他人を動かす」ということも学んだという。毎年、年のはじめに書かれた色紙には「和して同ぜず」「朋友は六親に叶（かな）う」などの言葉が見える。それぞれの商店は商売は小さく、知恵やアイデアも、組織や資本力のある大型資本には到底かなわないが、商店街として結束し、ともに汗をかければ太刀打ちできるという確信にほかならない。今に生きる近江商人

田中さんは徹底した地域住民主義を商店街の連帯の中でさらに推し進めた展開を試みようとしている。本年は高齡者よろず相談所の開設も予定している。社会福祉事業にも参画している田中さんとアモール・タワーは、住民のニーズを自ら探りつつ、地域に必要な、そしてお役に立てる事業展開の模索を続けている。



アモール東和銀座商店街の入り口付近

アモール・タワーの概要

1990年5月商店主ら41人、資本金1350万円で設立。社長に田中武夫氏が、取締役には商店街の若手商店主が就任。商店街の近くに開業した東部地域病院の院内売店やレストランの経営からスタートし、その後足立区の学校給食の民間委託を引き受ける。96年には亀有駅ガード下に誕生したショッピングセンターに「ふるさと館」を出店。ビルメンテナンス事業やインストアペーカリーも始まった。現在レストラン、学校給食、店舗・売店、弁当宅配、ビルメンテナンス事業と進出部門は5部門。年商は4億円、パートタイマーを含めた従業員は140名

「三方よし」に関するご意見、ご感想をお寄せください。随時掲載いたします。

伊藤忠兵衛旧宅



「近江商人ふるさと探訪ウォーク」開催

江州音頭発祥の地のひとつ豊郷で

わが国の商業の礎を築いた近江商人。AKINDO委員会では、その偉大な先人を輩出した土地や偉業により多くの人々に知っていただくとともに、その足跡に触れ、理解を深めていただくことを目的として県内各地の近江商人のふるさと探訪ウォークを開催してきました。本年は、江州音頭発祥の地のひとつとして知られ、北海道開拓で活躍した藤野家、総合商社伊藤忠を興した伊藤忠兵衛、木綿商として財を成した薩摩治兵衛など、明治に入って活躍した近江商人を輩出した豊郷町での開催を企画しました。紙上では豊郷町の概要をご紹介します。これらをご参考に、多数のみなさんご参加をお待ちしています。

豊郷から北海道に渡った、初代藤野喜兵衛は又十の商号で北海道の漁場の開拓などで活躍し、二代目の藤野四郎兵衛が天保七年（一八三六）に窮民対策として建築した屋敷がここ豊会

■豊会館（豊郷町下枝）
豊郷での商人の発祥は、古くは枝村商人といわれる美濃紙の専売権利をもっていった商人の座があったことまで溯り、領主の保護を受け有力商人が活躍した土地柄でした。旧中山道に沿った町並みは、落ちついた風情を見せる町家が並んでいます。



ふるさと探訪ウォーク開催要項

- 日時・場所 平成11年10月16日(土) 豊郷町周辺
- 募集定員 100人 (お申し込み多数の場合は抽選)
- 参加費 1,500円 (昼食代、諸費用を含む)
開催地までの旅費は各自ご負担ください
- お問い合わせ先 〒520-0044 大津市京町四丁目1-1 滋賀県中小企業振興課内 AKINDO委員会 電話077-523-4641 FAX077-528-4677

■阿自岐神社（豊郷町安食西）
百濟からの渡来人阿自岐氏が



千樹寺

■千樹寺（豊郷町下枝）
火災で消失した観音堂が藤野家の援助で再建された時、落慶法要で踊ったのが江州音頭の発祥であると伝わる。当寺の前には「江州音頭発祥の地」の碑が建てられている。



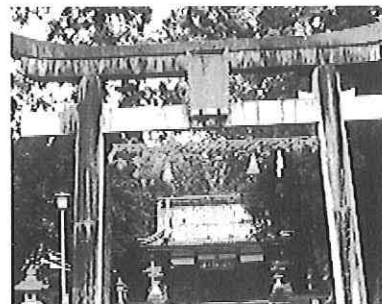
豊会館

館として、藤野家の歴史を伝えている。玄関前には石畑にあった一里塚が移され、屋敷内の松前庭園からは豪商の生活ぶりをうかがうことができる。



唯念寺

■唯念寺（豊郷町四十九院）
行基が彫ったと伝わる阿弥陀如来像と弥勒菩薩像を本尊とする真宗大谷派の寺院。寺内には日光東照宮を建立した甲良豊後守宗廣の像が寺宝として保管されている。



阿自岐神社

応神天皇の時代にこの地を開き、その祖神を祀ったと言われ、神社の南の茶臼山古墳は阿自岐氏の墓と考えられる。日本に漢字を伝えた王仁氏を招いて造られたという境内の「池泉多島庭園」は日本最古の庭園として重要な文化財であり、那須の与一に纏わる「矢池」もある。

近江商人と文化・芸術

日仏文化交流に尽くしたバロン薩摩

— 巨万の富を得た治兵衛とパトロンに徹した治郎八 —

行商から出発して大成した近江商人は、次第に交際の範囲が広く深いものとなり、文化的素養を身につける必要が生じてきました。自らの素養を研鑽すると同時に、商家に逗留した画家・書家・俳諧師などへの経済的な支援も行っています。豪商の文化・芸術への支援と保護によって、優れた文化・芸術品が現代にまで守り伝えられてきました。今回は海外での芸術家のパトロンとして活躍し、日本とフランスの文化交流に尽くした近江商人の系譜に連なるバロン(＝男爵)薩摩を紹介しましょう。

金巾の輸入で巨万の富を得た初代薩摩治兵衛

豊郷町四十九院出身の初代薩摩治兵衛は、江戸時代末期に日本橋の呉服問屋での奉公の後、木綿商として独立。横浜の開港と同時に金巾(堅くよった綿糸で目を堅く細かく薄地に織った綿布)の輸入で莫大な資金を得た豪商です。その財力は黎明期の日本の産業振興に大きく貢献

薩摩治郎八
明治34年(1901)薩摩治兵衛の息子として東京に生まれる。19歳で渡欧し、30年間の滞欧生活を回想録「せ・し・ぼん」に綴る。日仏文化交流の功労で勲三等旭日章を授章。瀬戸内晴美著「ゆくてかえらぬ」や獅子文六著「但馬太郎治郎八」のモデルとなっている。昭和51年(1976)徳島で死去。パリで開催された「薩摩展」で紹介された作品を中心とした「薩摩治郎八と巴里の日本人画家」企画展で紹介された作品の多くが徳島県立美術館に寄贈された。

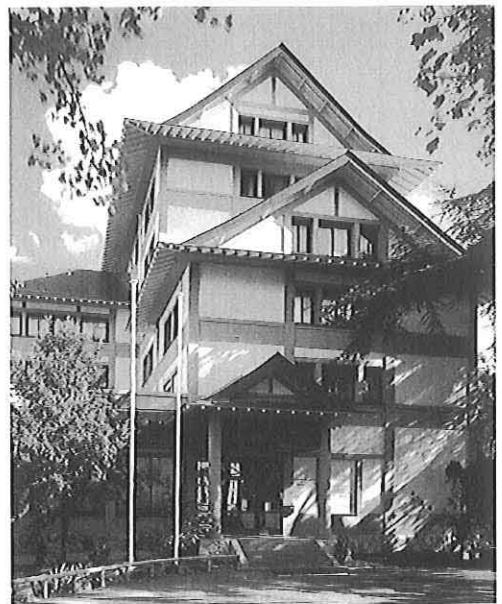


し、渋沢栄一の東洋紡績の設立も薩摩の協力なしでは不可能であったと伝えられています。日常は節約を旨とした生活を送りつつも、日本で最初に避雷針を設置するなど進取の気性に富んだ人でもありました。豊富な財力を持つ二代目は蘭の栽培や洋書に凝り、商売は番頭に任せて芸術を愛した人で、息子治郎八に託ったの良さ理解者となつていったのです。

十九歳で渡欧し、フランスの文化を日本に紹介

三代目の治郎八は、若くしてイギリスに憧れを持ち、一九二〇年にはイギリスに留学。さらにフランスに渡り、ここで、洋画家藤田嗣治との出会いを皮切りに、新しい音楽や芸術が誕生する時代のパリの社交界を中心としてフランスの文化を吸収してきました。ラヴェルらの作曲家と

実際のあった彼はフランス政府の要請でフランスの現代音楽を日本に紹介し、一方では岡本綺堂の「修善寺物語」のパリ公演を企画して日本文化をフランスに紹介するなど日本とフランスの文化交流に活躍しました。さらに、関東大震災後、財政が逼迫していた日本政府に代わって私財を投



パリの日本館
日本の城郭をイメージした日本館はビエール・サルドウーの設計で、玄関脇にはフランス語で「日本館—薩摩財団」と記されている。館内には藤田嗣治の壁画が飾られている。建設資金は10億円を越えるといわれ、建設の功績により治郎八にはレジオン・ヌール勲章が授与されている。

バロン薩摩に流れる隠徳善事

無尺歳な財力を背景に、パリの社交界の寵児となった彼は、自らの見返りを求めることなくパトロンに徹し、多くの日本人画家への援助を行うとともに、所有の美術品をプラハの国立美術館にも多数寄贈しています。この寄贈美術品が公開された頃、さしもの薩摩商店も、世界大恐慌のあおりを受けて閉店しました。資金源を断たれた治郎八は、一九五一年には無一文で帰国。その後はパリでの生活を

伝える著作を執筆しつつ、徳島で余生を過ごし一九七六年七四歳で亡くなりました。昨春秋、徳島県立近代美術館で「薩摩治郎八と巴里の日本人画家たち」と題した展示で当時の日本人画家の作品が紹介され、改めて彼の活躍ぶりに高い評価が集まっています。初代が巨万の富を得、その財力を日仏の文化交流に使い果たした近江商人の三代目の治郎八。事業の継承を堅く守ってきた多くの近江商人とは異なつたその生きざまの中で、放蕩息子と言われながらも後世に残したものは、限りなく大きなものでした。近江商人を意識してはいなかった治郎八にも隠徳善事の血が流れていたのでしょうか。



只今実施中！

期間：11月14日(日)まで

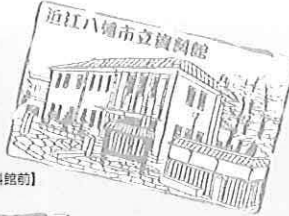
すたんぷらりいありぬ



恒例の近江商人発祥の地を巡る スタンプ4個で豪華記念品をプレゼント

毎年好評の「近江商人発祥の地を巡るすたんぷらりい」が7月15日より、始まりました。県内の近江八幡市、日野町、五個荘町、湖東町、豊郷町にある8カ所の近江商人関係資料館にスタンプを設置しています。本年は4市町以上のスタンプを集めると、デジタルカメラをはじめ、湖国の特産品などが抽選で70名にプレゼント。スタンプ台紙は各施設に設置しています。

◆近江八幡市立資料館
(0748) 32-7048
【9:00～16:30 月曜休館】
【入館料 一般300円】
【近江八幡駅から近江バス小幡町資料館前】



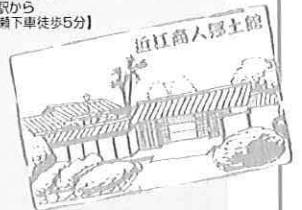
◆五個荘町歴史民俗資料館
(0748) 48-2602
【9:00～16:00 月曜・祝祭日休館】
【入館料 一般300円】
【JR能登川駅から近江バス集瀬下車徒歩5分】



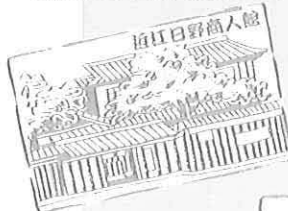
◆豊会館 (0749) 35-2356
【9:00～16:30 金曜休館】
【入館料 一般200円】
【JR稲枝駅から近江バス豊会館前下車すぐ】



◆外村繁文学館・大正館
(近江商人屋敷館) (0749) 35-2356
【9:00～16:00 月曜・祝祭日休館】
【入館料 一般400円】
【JR能登川駅から近江バス金堂下車徒歩5分】



◆近江商人郷土館
(0748) 45-0002
【10:00～16:00 月曜休館】
【入館料 一般500円】
【JR能登川駅からタクシー15分】



◆近江日野商人館
(0749) 35-2356
【9:00～16:00 月・金曜休館】
【入館料 一般300円】
【近江鉄道日野駅から近江バス大窪下車】



◆旧西川家住宅 (0748) 32-7048
【9:00～16:30 月曜休館】
【入館料 市立資料館と共通】
【近江八幡駅から近江バス小幡町資料館前下車すぐ】



◆近江商人博物館 (0748) 48-7100
【9:00～16:00 月曜・祝祭日休館】
【入館料 一般200円】
【JR能登川駅から近江バス金堂下車徒歩10分】

【スタンプ台紙は上記8ヶ所の資料館に用意してあります】



近江商人の金言名句 ⑬

武士は敬して遠ざけよ

企業と政界の癒着の問題は古くて新しい問題であり、いつの時代にも利権に係わる事件が多く発生している。近江商人も豪商となり、地域経済を左右するまでの力を有するようになる。次第に権力者である大名や武家との関係が深まってくる。こうした大名家と近江商人の関係については、今、湖東町の近江商人郷土館の特別展で詳細の紹介があるので、こちらを参考していただきたい。

近江商人の多くが、権力に依存して利益を得ることを潔しとせず、独立独歩、自己の能力のみに信念を置くという姿勢であった。表面では服従していながら、権力にすがるうとはしなかったのが近江商人の為政者とのつきあい方であった。

明治・大正という時代は政治が優先した時代で「政商」が栄えたが、近江商人からは政商は生まれていない。政商でなかったゆえに、破綻に追い込まれた小野組のような例もあり、また政商でなかった故に大きく発展する企業とならなかったこともある。「商人としての本分は、有無相通じること得た利益こそ真の利益」という言葉は、官僚指導型経済が続いた戦後の日本経済では縁遠い言葉であるが、深長な意味を持っている。

すたんぷらりいについての詳しいお問い合わせは左記まで

滋賀県大津市京町四丁目一
滋賀県中小企業振興課内
AKINDO委員会
電話 077-523-4641

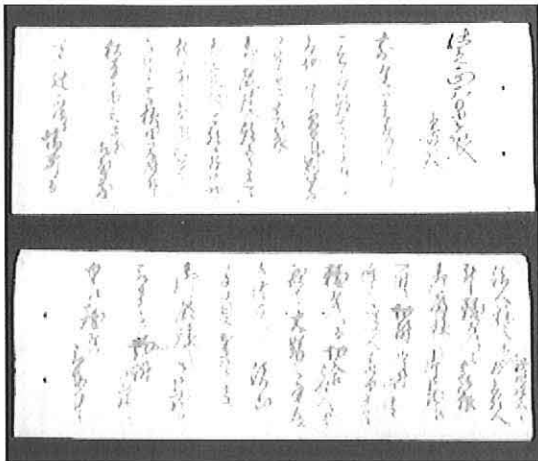
特別展「近江商人と江戸時代の大名」

豪商となった近江商人と大名との関係を紹介

【日時】 平成11年5月20日～11月30日
 午前10時から16時（閉館は16時30分）

【場所】 財団法人 近江商人郷土館
 愛知郡湖東町小田刈473
 TEL 0749-4510002

【休館日】 月曜日



桜田門外の変を伝える小林家の文書

近江商人郷土館では、五月二十日から十一月三十日まで、「近江商人と江戸時代の大名」をテーマとした特別展が開催されています。

封建的な身分制度の枠の中で活動した商人と大名の関係は、支配と従属として開始されましたが、江戸時代中期以降の商業の隆盛とともに相互依存へ転化

し、幕末に近づくると対立関係になる場合もみられました。広域の活動を特徴とする近江商人にとつて、政治権力への対応は避けることができない一家の存亡にもかかわることであり、細心の注意をはらうことが求められました。特別展では、豪商となった近江商人各家と大名権力との多様な具体的な関係を紹介します。



秋季特別展「藤井善助と有鄰館」

東洋文明の保護を志した善助の人物像と有鄰館所蔵の優品を紹介

藤井善助（一八七三～一九四三）は代々続く五個荘商人の長男に生まれ、十七歳で上海東亜同文書院大学に学び、その後江商合資会社、大阪紡績株式会社など数十社を経営するとともに、早くから国政に参与し、大養毅の薫陶を受け、東洋文明の保護を志しました。そして東洋

文化の誇りとする名品の多くの流出を憂い、蒐集につとめるとともに公開し、学術研究に役立つことを願って京都岡崎に有鄰館を開設しました。今回の特別展では有鄰館所蔵の優品を展示するとともに善助の目指した「精神的に豊かな社会づくり」の一助となることを目指して企画されました。

スキー毛糸で知られる藤井彦四郎は、善助の弟で、善助が政界に入るとともに社長を兄から受け継ぎました。

【日時】 9月19日(日)～11月28日(日)

【場所】 五個荘町 近江商人博物館

【料金】 一般/200円
 小中生/100円

【休館日】 月曜日・祝日の翌日

【お問い合わせ】
 TEL 0748-44817100
 FAX 0748-44817105

てんびん棒

地域商店街の活性化の事例として高い評価を得ている双壁が、西の「黒壁」と東の「アモール」。同じ滋賀県人が、全国から注目されていることは嬉しい。滋賀県長浜市から全国へとまちづくりの波紋を拡げる笹原さんと東京の下町で株式会社を作ったNPO的な運営を試みる田中さん。今に通じる近江商人の基本的な考え方が成果をあげているのではないだろうか。商店街の地盤沈下が問題となって久しく、各地から藁をも掴む思いで活性化の秘訣を尋ねにくる人々が多い。「事業進展の経緯は講演などで話しますが、実際に実行に移していく人は少ないです。結局は自分がいう意識が捨てられないのでしょうか」という田中さんの言葉が印象的であった。

商業地の活性化は、地域の特性や環境に応じた戦略こそが肝心であり、先行した地域の事例が即、各地で適応できるようなまよやしいものではない。実践を開いた中から独自の方向を見いだしつつ、各地で適応した新しい試みが展開されることの必要性を痛感する。

彦根市銀座街では、滋賀県立大の学生が、キャンパスからまちに出て新しい商店街の活性化への実験を始めている。学生の取り組みは各方面から注目を集めているが、学生と商店街の人々がともに協調しながら銀座商店街に必要なニーズを引き出し、より効果のある展開を行ってほしいものである。(一)